

西区地域公共交通に関する意見交換会 会議概要

1. 開催日時

平成27年6月30日（火） 午後2時～3時45分

2. 会場

新潟市西区役所3階 303会議室

3. 出席者（敬称略）

【委員等】

新潟市西区役所地域課長

高田 章子 [会長]

国土交通省 北陸信越運輸局新潟運輸支局 運輸企画専門官（輸送・監査担当）

佐久間 敏之 [副会長]

関係住民代表

坂井輪中学校区まちづくり協議会 会長 梶原 宜教

坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 会長 下川 照雄

五十嵐小学校区コミュニティ協議会 会長 伊藤 和美

真砂小学校区コミュニティ協議会 会長 大谷 勇

青山小学校区コミュニティ協議会 会長 中藤 榮子

小針小学校区コミュニティ協議会 会長 岩脇 正之

黒崎南ふれあい協議会 会長 大谷 一男

立仏校区ふれあい協議会 会長 鳴海 丈支

関係一般乗合旅客自動車運送事業者担当課長

新潟交通(株) 乗合バス部 企画調整課長 渡辺 健

新潟市ハイヤー・タクシー協会代表

専務理事 佐々木 紀彦

新潟西警察署交通課長

本間 義昭（代理出席：新潟西警察署交通課管理係長 関 雅充）

新潟市西区役所建設課長

今井 健二

運行団体等

NPO 法人 コミュニティバスを通す会 理事長 本間 信一

新潟交通観光バス 営業部営業課長 坂井 康人

【事務局】

西区役所地域課職員 3名

【傍聴者】

1人

4. 会議概要

《説明等》

開会に当たり、事務局より本会議の位置づけなどについて説明。

- ・本会議を西区で開催するのは5年ぶり。
- ・本市の附属機関の地域公共交通会議の調査審議にあたり、「西区分科会」を設置していたが、市全体の附属機関の見直しに伴い、平成27年度から会議の名称を「西区地域公共交通に関する意見交換会」と変更し、地域の実情を把握するため、区ごとに意見を聴取するもの。所掌事務は、区バス住民バスなど地域公共交通に関する事項。
- ・今回の西区意見交換会の内容は7月3日に開催予定の地域公共交通会議において会長より報告され、その後、運行事業者が運輸局へ運行計画の変更の認可申請を行う。
- ・事務局より西区住民バスの坂井輪コミュニティバスの運行計画の変更内容について資料1により説明。
- ・資料1「運行計画（変更）」のとおり了承されました。

《主な質疑・意見》

【運行目的・収支に関すること】

- ・西大通りや産業通りにスーパーなど商店が無くなり、五十嵐や有明町の高齢者は買い物の度に山を越えなければならず、大変苦勞していたため、路線沿線の自治会長や新潟交通、関係機関と検討を重ね現在の運行に至っている。（運行団体等：コミュニティバスを通す会 理事長）
- ・収支率29%は、経営的に大丈夫なのか。また、バス停からどのくらい離れたエリアの住民、人口を想定して収支を考えているのか。収支をよくするための工夫は何をしているのか。（関係住民代表）
- ・ルート変更のメリットは何か。いっぺこ〜とに乗り入れることで収支率がよくなると見込んでいるのか。（関係住民代表）
 - ⇒収支率とは、運行経費に占める運賃収入の割合。通常では、維持できない状況となるが、住民バスの目的及び地域生活交通に果たす重要性から、市で運行経費補助を行っている。なお、QバスについてはH26年度までは、70%補助。H27年度は補助制度の見直しで75%まで補助している。補助率の算定にあたっては、ルート沿線地域の人口密度、高齢化率、公共交通空白地域の解消度合いを考慮して行っている。社会実験の土日運行分は、全額補助で運行している。（事務局）
 - ⇒運行団体としては、亀貝への乗り入れ要望の声を複数受けていると聞いているが、需要調査や利用者アンケートまでは実施していないので、需要予測としての具体的な数字ではお答えできない。亀貝に乗り入れることによって利便性を高め、さらに利用率を高めていくという考えによるもの。
 - もちろん、運行団体においてもコスト意識及び利用の向上の意識をもって取り組んでいき、変更後の状況を見ながら、今後更なる利用者増について検討していく予定としている。（事務局）

- ・ルート変更に係る運行経費はどうか。（関係住民代表）
⇒少なくとも90万円から多くて120万円程度の経費が増加する見込みである。収支率を踏まえ、1日当たり5人から6人程度の利用者増が目標となる。（事務局）
- ・亀貝への乗り入れは、地域公共交通検討会議や自治協議会第3部会でも議論をしてきた。地域住民の声や、農協の施設もできて、今回のルート変更に至ったことは評価をしている。（関係住民代表）
- ・運行団体はNPO法人であるから経営をしっかりとしないといけない。ルートを延伸すれば運行経費もかかり、経営が大変になるのではないかと心配している。（関係住民代表）

【ルートに関すること】

- ・Q バスの主な利用者は高齢者が多いとのことだが、流通センター方面のルートを通るより亀貝を貫通した方が良いのではないか。（関係住民代表）
⇒亀貝通過についても、新潟交通との検討が必要になるが、将来的には、今回の乗り入れ状況を踏まえ検討していきたい。
今後は、ルート変更の利用状況や運行収支状況を注視しながら、利用者などの声を聞き更なる改善に向け検討していきたい。西新潟中央病院まで乗り入れの要望もあり、いろいろな要望や声も聞きながら検討していきたい。（運行団体等：コミュニティバスを通す会理事長）
⇒補足すると、流通センター方面のルートも朝の時間帯も含め、少数だが利用があるので、その方々の代替手段も確保しない中で運行ルートを変更するのめどうかという検討があった。（運行団体等：新潟交通観光バス営業課長）
- ・利用の客層も異なるであろうから、ルートの検討については、新潟交通も住民バスに協力的になってもらいたい。（関係住民代表）
⇒西区に営業路線は多数あるが、補助を受けずに運賃収入で運行している。一方、住民バスは、地域交通の維持確保が目的で運行しているが、収支状況はよくないので、行政から補助を受け運行している。収支を上げるには、人口密度の高いところを通れば上がるが、営業路線と重複すると補助路線が民業圧迫をするような事態に繋がってしまうこともあるので、十分な検討が必要と考えている。（関係一般乗合旅客自動車運送事業者担当課長）
⇒一方、新潟交通の営業路線は、東西を中心に運行し、南北をつなぐ役割をQバスが担っている。亀貝の商業地域に公共交通が通ることが、公共交通の利用促進ということからも意味があると考えている。（関係一般乗合旅客自動車運送事業者担当課長）
- ・Q バス全体のルートについて、有明は通るが、浦山の方は通らない。ルート変更を検討

していただけないか。（関係住民代表）

⇒ルートの設定については、大型バスは、大きい道路しか走れない。また新潟交通の営業路線との重複も考えるとルートは限られる。（運行団体等：コミュニティバスを通す会理事長）

【交通渋滞に関すること】

- ・新ルートが通る亀貝の道路は、現状で渋滞がひどい状態（特に土休日）だが、そこにバスが通ると運行や流れに支障がでないか。（関係住民代表）

⇒できるかどうかわからないが、亀貝の丁字路交差点の渋滞解消の案として、既存ゼブラ帯を活かした右折車線を追加する方法も検討している。信号機の時間調整も目いっぱい対応していく。9月5日以降のバスの状況や渋滞状況を見ながら、交通渋滞や交通事故の発生が無いようにできることから対応していきたいと考えている。

（新潟西警察署交通課長（代理））

⇒亀貝交差点の渋滞は、曜日と時間帯によって状況が違う。警察と連携しながら対応していきたい。（西区建設課長）

【小型バスに関すること】

- ・経費縮減や、交通渋滞の解消の面からして、大型バスから小型バスへの変更も検討しないのか。（関係住民代表）

⇒これまでも運行にあたって、小型バスの検討も行ったところであるが、バスのサイズは変わっても運転手の人件費は変わらないため、明確なメリットが打ち出せていない状況であった。（事務局）

- ・大型バスの便数を増やすよりも、小型バスにしてほしい。運転手の人件費はかわらないとの話だが、リタイヤしたタクシー運転手などが小型バスの運転手になれないか。（関係住民代表）

⇒まずバス事業者の車両の保有状況による。そして、小さい車両であれば、小回りが利くが、大勢乗ってくると乗り残しが生じてしまう。また10名以下の車両で運行するとタクシー事業になる。バス事業と重ねて新しい交通形態も全国で行われている。なお、免許の件については所管外となる。（新潟運輸支局運輸企画専門官）

【その他】

- ・新潟市は広域であることから、路線延長が非常に長くなるため、バス運行は難しくなる。金沢などは、路線バスが入りきらない町なかで小型バスがくるくる回っている。自家用車感覚で15分間隔位で走っている。料金も100円均一で使い勝手が良い。乗車密度は、30人以下のバスに10～15人位の乗車で運営し、地域に定着している。（新潟市タクシー・ハイヤー協会代表）
- ・住民バスの採算性は厳しい。そういうものを路線バスと比較競争できない。採算性が低いのは、困難なところを走っているから。競争できないところだから、そこを走ってい

るという理解の仕方もあるのではないか。（新潟市タクシー・ハイヤー協会代表）

- ・ 済生会第二病院からイオン新潟西店を結ぶ都市計画道路の現在の状況を建設課長から聞きたい。将来のルート再編に繋がるかもしれない。（関係住民代表）

⇒都市計画道路小新亀貝線は、事業を進めるための準備作業を行っているところ。新たに用地取得が必要な事業であるため、何年頃完成ということが言えない状況である。（西区建設課長）

以上